



ボランティアのお誘い

**「ボランティア」で人生後半をより豊かにしよう！
ボランティアを楽しむためには**



NPO法人つるがしま里山サポークラブ

ボランティアを楽しむためには



大切な3つの要素

- やる気がなければ何も始まらない。
- 主体性をもってボランティア活動に取り組むこと
- 取り組み続けるためには、ワクワク感がないといけない。

活動の目的

若い世代や地域のために、楽しみながら地域をよくしていく

そういう感覚が、実はすごく重要だと思います。

- 興味、体験を通じて、ボランティア参加意識が芽生えると思います。
このような可能性のきっかけになればとも思います

< ボランティア活動には > 臨機応変に対応する事が必要

日本には、400年経っても崩れない、石垣の工法があります。石の個性に合わせて配置し、力を分散させていくようにする穴太衆(あのうしゅう)積みという方法です。



このため、現場で一つ一つの石の個性を判断して積んでいくこととなり、設計図で表現できない、臨機応変に対応する事になります。

ボランティア活動も同じで、顔ぶれにより現場で臨機応変に対応する事が大切です。

このため、現場での経験により自信と応用力を高める事が大切です。

問題意識を持つ

- ・ 地域ニーズを知る事
- ・ 地域の特性や必要とされるニーズは何か？

相手を良く知る事が必要

- ・ 仲良くなる事から気づくことが多い

何が問題

- ・ 障害者への支援とは
- ・ 高齢者への支援とは
- ・ 子ども達への支援とは
- ・ その他活動の支援とは

自分たちの出来ることは、何か？

- ・ 足りない部分を他の人と一緒に取り組もう

ボランティアの社会的役割

社会における生活には多種多様なサービスが必要です。そのサービスの提供者は有料サービスを前提とした企業活動によって維持されているサービス、最低限の生活維持のために必要なサービスを税金で提供しているサービスがあります。

しかし、その中間領域には、企業は採算が合わない等からサービス出来ない領域がある。

同様に、法律で規定されて、対象となる人には税金でサービスを提供しています。しかし、基準から少しでも外れた人々には、提供出来ない事となっています。

このため、企業と行政のサービスの中間領域は、必要なサービス提供者がいなく、市民自らがサービスを生み出していくことが必要となります。この中間領域は、一人一人の思いによる多様なボランティア活動が埋められていると考えられます。このため、ボランティア活動は、企業や行政と市民の連携をはかり、効果的な活動を継続することが大切です

市民・企業。行政の役割分担

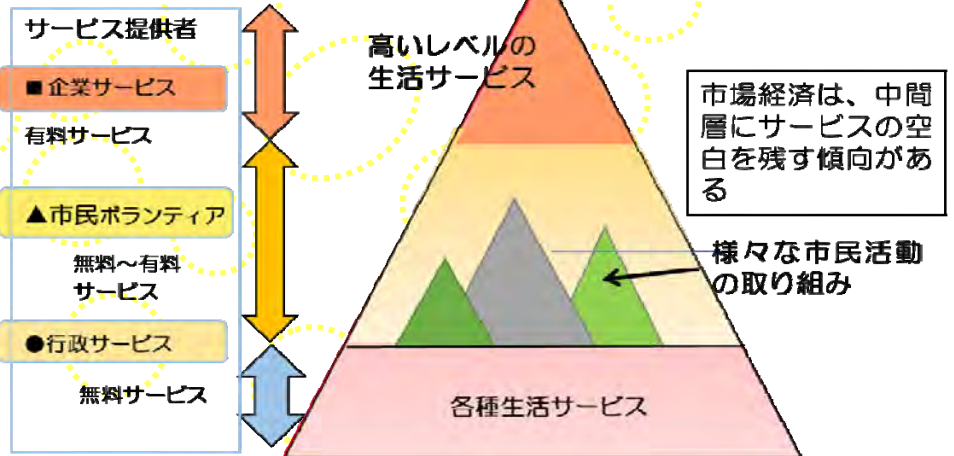
生活に必要なサービスは、行政、企業などにより提供されています。

● 市民のニーズやレベルに応じて、様々なサービスが提供される

1. 企業は、有料でサービスを提供しています。

2. 行政の基準外や有料サービスを受けられない人々を支える人が大切です。ボランティアなど市民により支えていく事が必要で地域の絆が大切です

3. 行政は、一定の基準にもとづいて、サービスを提供しています。



楽しいボランティア活動の仕組みとは

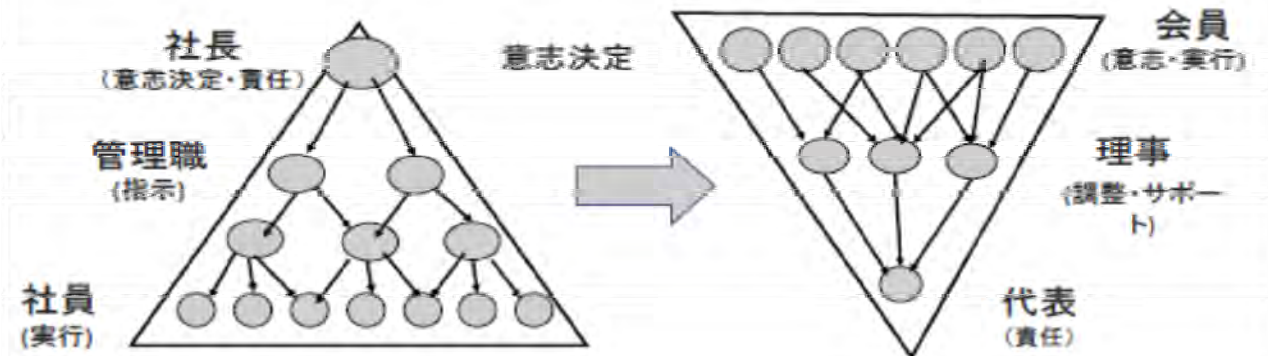
ボランティアの活動は、一人一人の思いで取り組みし満足感を報酬として活動しています。

ボランティアのグループは、一人一人の思いの重なる人をグループ化し、活動に取り組み、結果に対する充実感、達成感などを求めて、取り組んでいる。しかし、その活動の先には、社会や人のために役立つという目的は不可欠です。、この他・ボランティアの仕組みは、会社と異なり、会員の意志により活動し、理事や代表は、会員の活動をサポートする役割であります。

・会社などの仕組み

・ボランティアの仕組み

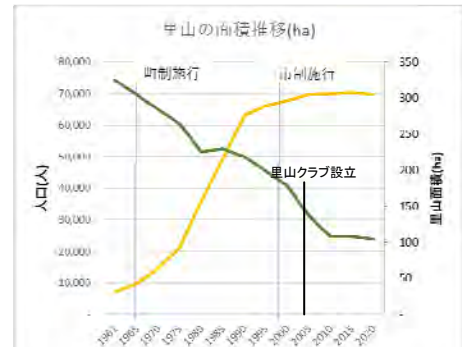
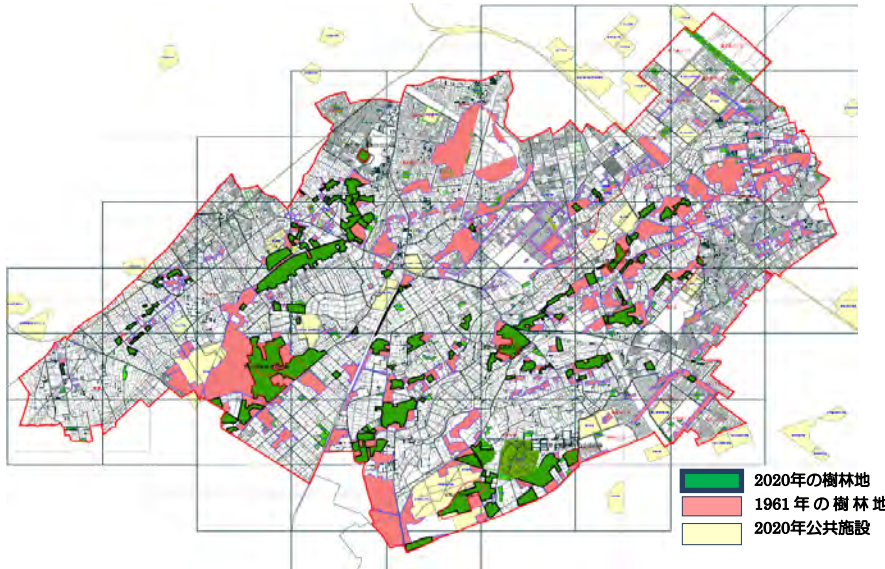
一人一人の主体性
興味・わくわく感



ボランティアを体験しませんか

鶴ヶ島の里山は、人口増加と共に減少しています。

1961年の里山と2020年の里山



「町史:自然条件編Ⅱ鶴ヶ島の植物」によれば、1950年代の人口増加を示し始めた時代には約300haの樹林地があったと言われています。その後、人口急増により森林破壊が進んでいると、当時から里山の減少が危惧されていました。

1961年の国土地理院の航空写真から里山の面積を算定すると、約325haの里山がありました。その後の急激な人口増加により1966年に鶴ヶ島町施行、1991年鶴ヶ島市施行となり、この間に人口は10倍の7万人になり、里山の面積は大幅な減少を続け、現在の2020年では、105haと約80年間で1/3となってしまいました。

NPO法人つるがしま里山クラブの活動 鶴ヶ島市の里山の減少を防ぎたい

設立の経緯

鶴ヶ島市の里山の減少を防ぐために、市民契約制度による「市民の森」の指定を進め、全国一の面積を誇っていました。現在は、千葉市に抜かれ、全国第二位の都市で、人口あたりで見ると1.9m²で全国一の水準となっています。

この市民の森の維持管理を市民団体で実施する事を目的に、市の呼びかけで2002年に始まったのが「つるがしま里山サポートクラブ」の活動です。

設立目的

市内及び近隣地域に残された樹林地(以下里山という)の保全回復活動を通して、会員相互の親睦と良好な里山を未来に継承することにより、市民だれもが健康かつ安心して生活を継続出来るまちづくりを推進していくことを目的とする

組織

特定非営利活動法人
つるがしま里山サポートクラブ

任意団体設立 2003年4月 1日

NPO設立年 2005年12月28日

会員数 60名

ホームページ

<http://www.satoyamasupport.com/>

活動の場

市内にある「市民の森」(市民管理制度(地主と市と団体との契約)による市民の森を活動場所として始まりました)6ヶ所の内、3カ所の市民の森と太田ヶ谷の森の、4カ所、合わせて約16haの森の維持管理をしています。

里山サポートクラブの活動内容

里山の活動体制

里山を保全し、次世代へ継承したいという目的を実現するため、3つの目標に取り組んでいます。

目標1 里山の保全活動

里山の生態系を保護し、維持するため草刈り、ごみ拾い、伐採、野生生物調査など他の環境保護団体や地域の自治会、支え合い協議会と連携して、取り組んでいます。
太田ヶ谷の森の植林や道路沿道に小彼岸1000本桜の植林活動に取り組んでいます。

目標2 里山保全の普及活動

市民のボランティア体験、小学校の自然体験学習等を通じて、里山の重要性や環境への影響等の理解やコミュニティ意識を高める活動に取り組んでいます。

目標3 里山の変化と役割指標

2005年に市の里山の調査を基本に、5年毎の変化を会員の参加によって調査を継続しています。又、国土地理院の航空写真を参考に、1961年以降5年毎の里山の変化を整理しています。

里山の森の持っている地域の気温効果について、市民の森、宅地、畑等の用途別に市内24カ所の常時観測体制(30分間隔)を構築し2016年から継続しています。

近年は、最高温度が40℃を超え、最低温度が零下10℃を超えており、最高最低温度の変化が極端となっています。

NPO 法人つるがしま里山サポートクラブの目的・目標と活動内容

市内及び近隣地域に残された樹林地(以下里山という)の保全回復活動を通して、会員相互の親睦と良好な里山を未来に継承することにより、市民だれもが健康かつ安心して生活を継続出来るまちづくりを推進していくことを目的とする

目的 里山(森)の保全 (里山クラブの取り組み)



SATOYAMA イニシアティブ COP10

鶴ヶ島の環境容量

自然資源の循環利用

地域の伝統・文化

多様な主体の参加

持続可能な地域社会

プログラム

活動内容

1 里山の保全活動

市民の森の除草など維持管理
植樹活動

除草活動・川の清掃
苗の育成・干本桜の取り組み

2.里山保全の普及活動

里山維持のために伐採
市民の森のイベント
学校との自然学習連携活動
保育園・障害者と連携活動
市民の自然体験活動

伐採材の活用(製材・木工)
門松づくり(伝統文化)
タケノコ堀り(自然恵み)
落ち葉拾い(循環)
里芋栽培(食料問題)

高齢者ベンチ、樹名札
市民団体・学校・市民との連携
坂戸・毛呂山の団体と連携活動
子ども達の自然体験活動
社協ボランティア体験

3 里山の変化と役割指標

里山・水辺の面積調査
市内気温調査(森の効果)

2005 から 5 年毎に調査
2014、15年、2016年から～常時観測 30分毎

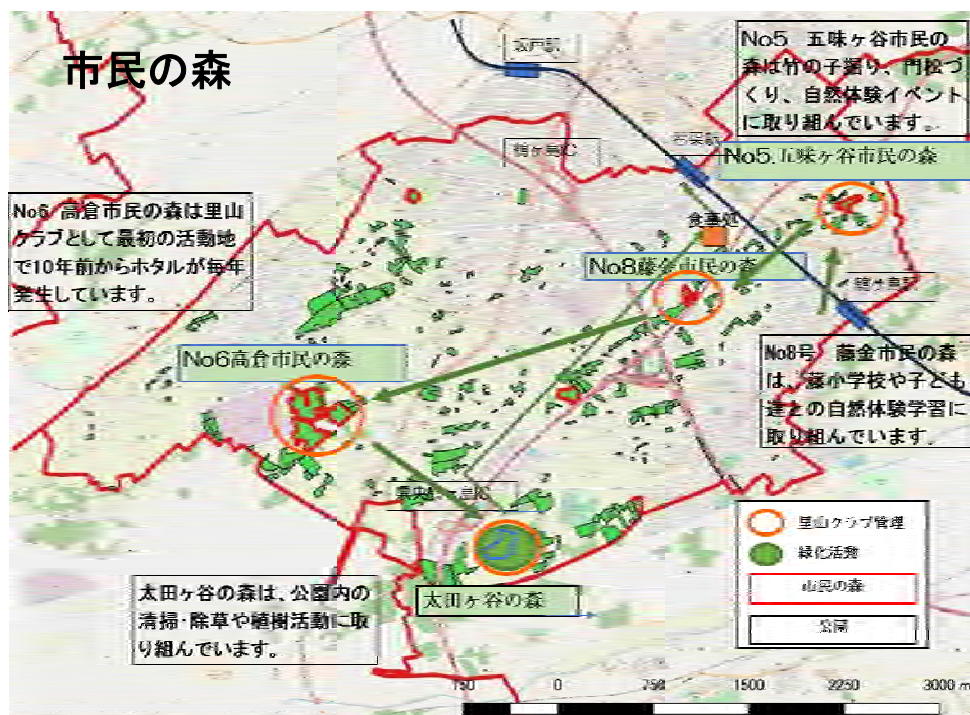
環境改善指標

市民の森の変化

市民の森は、市民緑地契約制度による緑地保全・緑化推進法人（みどり法人）を含む地方公共団体が設置管理の主体となる制度で、市民団体などの管理が進められるしくみで、鶴ヶ島市は制度発足の初期から取組み、全国でも最大規模の13.2haとなっていました。

その後、第3号鶴ヶ丘市民の森は平成23年、第7号下新田市民の森は平成29年に市民の森の指定解除となりました。一方、平成15年には、新たに藤金市民の森が開設され、現在は6ヶ所、13.3haとなっています。

NPO法人つるがしま里山サポートクラブは、3ヶ所、9.8haと、太田ヶ谷の森5.6haを合わせて、15.4haの維持保全活動に取り組んでいます。



鶴ヶ島市の市民の森

	名前	面積
1	太田ヶ谷市民の森	11,304
2	羽折稲荷神社市民の森	6,928
4	高德神社市民の森	15,791
5	五味ヶ谷市民の森	6,856
6	高倉うさぎ市民の森	81,272
8	藤金市民の森	10,631
	市民の森合計	132,782
	太田ヶ谷の森 (公園)	55,593

里山クラブが管理している森

第5号 五味ヶ谷市民の森

1. この市民の森は、設立以来、地域の市民との連携活動を継続しています。
2. 竹林が存在し、門松づくり、竹の子掘りや竹細工材料供給や子ども達のイベントが開催されています。



第8号藤金市民の森

地域の環境団体の要請により、市民の森として発足した森です。

1. 常緑林と落葉林に分かれており、隣接する大谷川の水辺と緑の自然に恵まれた森です
2. 隣接する藤小学校の生徒の自然学習授業の場として活用されています
3. 大谷川の改修計画が予定されており、子ども達が利用出来る水辺が無くなる恐れがあります。



小学校自然体験学習



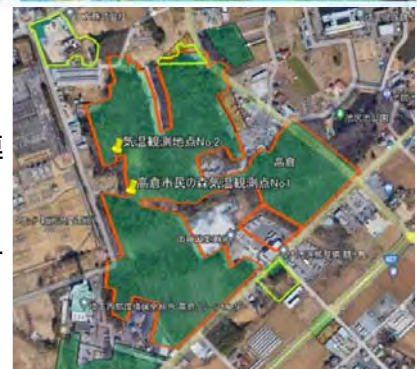
大谷川体験



竹細工

第6号高倉市民の森

1. 里山クラブが最初に取り組んだ市民の森
2. 多様な市民団体との連携イベントを開催し、市民活動団体の連携の始まり
3. 飯盛川清流復活大作戦は沿川地域住民参加で開催
4. 10年前には、この活動によってホテルが発生し、現在も継続しています



飯盛川清流復活大作戦



参加者の記念写真

太田ヶ谷の森



記念植樹



小彼岸桜



伐採木の撤出作業

自然の恵み
八十過ぎても、皆元気



NPO法人 つるがしき里山サポークラブ

350-2201:埼玉県鶴ヶ島市富士見4-15-2-A103

TEL:080-3588-7868

<http://www.satoyamasupport.com/>

この冊子は公益財団法人イオン環境財団の助成を受けて印刷しています。